

# 香芝市埋蔵文化財発掘調査概報 10

— 平成 9 年度 —

1998

香芝市教育委員会

# 香芝市埋蔵文化財発掘調査概報 10

— 平成 9 年度 —

1998

香芝市教育委員会

## 序 文

香芝市は奈良県の北西部、『万葉集』にもうたわれた二上山の麓に位置します。市内各地には数多くの有形・無形の文化財が残されています。しかし近年、大阪のベッドタウンとして宅地開発がさかんとなり、埋蔵文化財の発掘件数も増加の一途をたどっています。

このたび、平成9年度において民間の開発事業に伴って発掘調査を実施しました5件の調査結果をとりまとめ、その発掘調査概要報告書として刊行することになりました。

この発掘調査を実施するにあたり、ご協力を賜りました地元の方々をはじめ、その他関係者の皆様に深く感謝を申し上げますとともに、この報告書が多くの方々の目にふれ、当市の埋蔵文化財調査について深いご理解、ご協力を頂ければ幸甚に存じます。

平成10年3月

香芝市教育委員会

教育長 百 濟 成 之

## 例　　言

1. 本書は香芝市教育委員会が平成9年度に受託事業として実施した埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は、生涯学習課二上山博物館学芸員山下隆次・下大迫幹洋が担当した。
3. 本書の執筆は調査担当者が分担し目次に明記し、編集は山下がおこなった。

## 目　　次

発掘調査位置図・発掘調査一覧	1
1 錦田遺跡（第11次調査）	（山下） 2
I 遺跡の位置と環境	2
II 調査の経過と概要	3
III まとめ	3
2 狐井遺跡（第16次調査）	（山下） 4
I 遺跡の位置と環境	4
II 調査の経過と概要	4
1 調査の方法と経過	4
2 おもな遺構・遺物	5
III まとめ	5
3 桜ヶ丘第1地点遺跡（第9次調査）	（山下） 6
I 遺跡の位置と環境	6
II 調査の経過と概要	6
III まとめ	7
4 藤ノ木丁遺跡（第17次調査）	（山下） 8
I 遺跡の位置と環境	8
II 調査の経過と概要	8
III まとめ	8
5 瓦口森田遺跡（第4次調査）	（下大迫） 9
I 遺跡の位置と環境	9
II 調査の経過と概要	10
III まとめ	10



第1図 調査位置図 (S=1/50,000、上が北)

調査地一覧（国庫補助金事業以外）

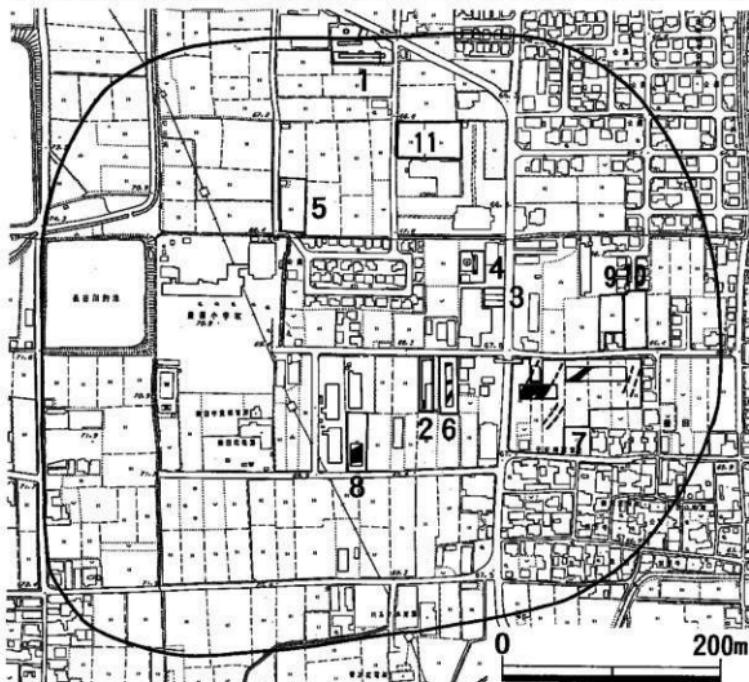
	遺跡名	調査地番	調査期間	調査面積
1	鶴田遺跡	良福寺45-1、50	平9. 4. 18	60m <sup>2</sup>
2	狐井遺跡	五位堂494、495	平9. 5. 21～平9. 8. 1	110m <sup>2</sup>
3	桜ヶ丘第1地点遺跡	穴虫3138-22	平9. 6. 27～平9. 7. 5	12m <sup>2</sup>
4	藤ノ木丁遺跡	狐井211-1	平9. 10. 29	20m <sup>2</sup>
5	瓦口森田遺跡	狐井489-5、490-1	平10. 2. 3	30m <sup>2</sup>

## 1 鎌田遺跡（第11次調査）

### I 遺跡の位置と環境

鎌田遺跡は香芝市の南端、鎌田小学校の周辺に位置する縄文時代から古墳時代にわたる複合遺跡である。遺跡は二上山麓東部から東・北東に向かって緩やかに派生する二上山扇状地の扇端部を中心に展開しており、遺跡の北東約1kmには古墳時代後期の狐井城山古墳（全長約140m）や縄文時代前期～中期初頭の石器生産遺跡と推定される狐井遺跡が、南西約1.5kmの地点には、大和でも有数の縄文～弥生時代の拠点集落である竹内遺跡（當麻町）が所在する。

鎌田遺跡ではこれまで10次の発掘調査が行われており、各地区で大小の自然流路等が検出されている。第2次調査では縄文時代晩期の突帯文土器が出土し、第5次調査では古墳時代前期～中期の土器や木製農耕具類などが、第6次調査では古墳時代前期～中期の土器とともに古墳時代前期の大型掘立柱建物の建築部材や護岸遺構などが検出され、また、その下層から弥生時代前期の



第2図 鎌田遺跡調査位置図（上が北）

土器が市内で初めて一括出土した。さらに、第8次調査でも古墳時代前期～中期の土器が出土している。しかし、第7・9・10次調査では大小の自然流路等が検出されたのみで遺物は皆無であった。これらの調査から、遺跡の東端はほぼ第6次調査地あたりであることが判明している。しかし、北、南、西端については今後の調査結果を待たなければならない状況である。

## II 調査の経過と概要

今回の発掘調査は、施主から平成9年4月8日付けで発掘届出書が提出されたことに始まる。現在、水田となっている土地を農地転用後に盛土して宅地造成する計画であることから、香芝市教育委員会が施主と協議し、農地転用許可後、盛土前に発掘調査を実施することにした。

調査は4月18日に実施した。まず、調査地の南西で4m×10mのトレンチを設定して重機で掘削を開始した（第1トレンチ）。しかし、遺構や遺物はその存在が考えられる第3層及び、第4層上面からは全く検出されなかった。そして、第2・4層（灰色砂質土）からの激しい涌水のためトレンチの掘削が困難となり、写真撮影のあと埋め戻した。層序は以下の通りである。

第1層 暗灰色土（層厚約20cm、現代耕作土）

第2層 灰色砂質土（層厚約100cm）

第3層 黒灰色粘質土（層厚約80cm）

第4層 灰色砂質土（層厚約80cm以上）

次に、調査地の中央やや東よりで2m×10mのトレンチ（第2トレンチ）を設定して重機で掘削したが、第1トレンチと同じ堆積で、遺構・遺物が皆無であったため、トレンチの拡張等を断念し、写真撮影のあと埋め戻した。

## III まとめ

今回の調査において遺構・遺物は検出されなかった。調査地は地層の堆積から考えると大規模な自然河道の中かその氾濫原であったと考えられる。第5次調査では自然流路とともに古墳時代の土器が完形品を含め数十点出土したのに対して、今回の調査では皆無であった。今後、この付近の調査結果を待たなければならないが、遺跡の北端が第5次調査地あたりである可能性が高まったと言えよう。

### 参考文献

- 奈良県内市町村埋蔵文化財技術担当者連絡協議会編 1993「鎌田遺跡」「平成4年度奈良県内市町村埋蔵文化財発掘調査報告会資料」奈良県内市町村埋蔵文化財技術担当者連絡協議会  
香芝市教育委員会編 1994「鎌田遺跡第7次調査」「香芝市埋蔵文化財発掘調査概報2」香芝市教育委員会  
香芝市教育委員会編 1995「鎌田遺跡第8次調査」「香芝市埋蔵文化財発掘調査概報4」香芝市教育委員会  
香芝市教育委員会編 1996「鎌田遺跡第9・10次調査」「香芝市埋蔵文化財発掘調査概報6」香芝市教育委員会

## 2 狐井遺跡（第16次調査）

### I 遺跡の位置と環境

狐井遺跡は香芝市狐井の集落東方、通称狐井丘陵の南東一帯に広がる遺跡である。当遺跡は、昭和10年ごろ遺跡推定範囲の北東に位置する改正池で縄文土器や石器などが採集され、翌11年に樋口清之氏により報告されその存在が知られるようになった。その後、15次にわたる発掘調査によって、縄文時代から平安時代にわたる複合遺跡であることが判明した。なかでも、平成5年度に実施した第8次調査では、近畿地方でも資料の少ない縄文時代前期後半から中期

初頭の土器約3,000点のほか、石器約600点をはじめとするサヌカイト片数万点や獸骨（イノシシ・シカ）が出土し、さらに、個人住宅建築に伴う立会調査では縄文時代前期の土器に伴って石皿2点などが出土するなど、当遺跡の重要性が指摘されている。



第3図 狐井遺跡調査位置図

### II 調査の経過と概要

#### 1 調査の方法と経過

今回の発掘調査は、分譲住宅建築工事のため平成8年8月29日付けで施主から発掘届出書が提出されたことに始まる。調査地は縄文土器等が大量に出土した第8次調査地から南西へ約100m、縄文時代前期の土器と石皿が出土した場所から南へ約30mの位置にあり、遺跡範囲内において最も遺物が集中して出土する地域である。また、現在はJR和歌山線で2分されすべて宅地として開発されてしまったが、調査地の北側にはかつて直径約100mほどの微高地が存在しており、今回の調査地はこの微高地の南縁辺部にあたる。

調査は5月29日から開始した。調査地のやや東よりで5m×22mのトレンチを設定し、おもに人力で掘削した。その結果、現地表面から約55cmで地山となり、この面で中世の素掘り溝が検出され、地山の上に堆積していた2層の中世と考えられる耕作土層から縄文時代～近世の土器片やサヌカイト片等が出土した。基本層序は以下の通りである。

第1層 暗灰色土（耕作土、層厚約15cm）

第2層 灰褐色土（中世？耕作土、層厚約20cm、縄文土器等を含む）

第3層 淡褐色土（中近世？耕作土、層厚約20cm、縄文土器等を含む）

第4層 明黄褐色土（地山）

## 2 おもな遺構・遺物

出土した遺物は石鐵約80点のほかサヌカイト片數万点、そして、縄文土器片が約1,000点ほどである。縄文土器のほとんどが磨滅していることから、調査地の北側にかつて存在した微高地から耕作等に伴って運ばれてきたものと考えられる。

検出した遺構は地山の面で東西南北に走る中世素掘り溝10条、ピット3基、土坑1基である。素掘り溝は幅約20~50cmで、埋土から縄文土器片や瓦器片、サヌカイト片が出土した。ピットは直径約20cmのものが2基（P-01、02）、直径約50cm、深さ75cmのものが1基（P-03）でこの底から黒色土器が出土した。土坑（SK-01）は約1.8×1.2mの長方形で、埋土から縄文土器（北白川下層II b式）の破片1点のほか瓦器などが出土した。

調査面積は110m<sup>2</sup>、実働は36日であった。

## III まとめ

今回の調査において検出した遺構は、出土した遺物から平安時代～中近世に属すると考えられ、縄文時代にさかのぼるものはなかった。遺物の出土状況から集落の中心は、かつて北側に存在した微高地と考えられ、もし今回の調査地が集落に含まれていたとしても、中近世における耕作によって削平されたと考えられる。出土した縄文土器は前期の北白川下層II a式から中期の大歳山式土器で、第8次調査で出土した縄文土器とほぼ同じ時期である。このことから、この時期にかなり大規模な集落が形成されていたことが一層明確となった。

今後、調査地の北側はすでに開発され住宅が建ちならんでいるが、平成7年度に実施した個人住宅建築に伴う立会調査で現地表面から約20cmの深さでピットを検出し、このピットの底から石皿などが出土したことや、空き地の現地表面で縄文土器片や石鐵が採集できることから、地下に遺構が残っている可能性が考えられ、建て替えの際には再調査が望まれる。

## 参考文献

- 香芝市教育委員会編 1994「狐井遺跡（第8・9次）調査」「香芝市埋蔵文化財発掘調査概報2」香芝市教育委員会  
香芝市教育委員会編 1995「狐井遺跡」「香芝市埋蔵文化財発掘調査概報3」香芝市教育委員会  
香芝市教育委員会編 1996「狐井遺跡（第11・12次調査）」「香芝市埋蔵文化財発掘調査概報6」香芝市教育委員会  
香芝市教育委員会編 1997「狐井遺跡（第15次調査）」「香芝市埋蔵文化財発掘調査概報7」香芝市教育委員会  
香芝市教育委員会編 1997「狐井遺跡第96-1次・96-2次調査」「香芝市埋蔵文化財発掘調査概報8」香芝市教育委員会  
橋口清之 1936「新発見の縄文式土器出土遺跡—大和下田村狐井遺跡—」大和志第3巻第11号

### 3 桜ヶ丘第1地点遺跡（第9次調査）

#### I 遺跡の位置と環境

桜ヶ丘第1地点遺跡は香芝市穴虫小字赤土平に所在し、二上山北麓に分布する旧石器時代の遺跡群を代表する遺跡の一つである。他の遺跡の多くが二上層群及び大阪層群で形成される丘陵の頂部や斜面上に立地するのに対して、寺山火山岩を基盤とし、西側を原川に、北側を前川によって形成された河成段丘面上に立地する。

当遺跡は樋口清之氏により発見され、昭和6年に報告された（樋口 1931）。その後、同志社大学旧石器文化談話会による二上山北麓石器時代遺跡群分布調査の一環として昭和46年に再確認され（同志社大学旧石器文化談話会 1992、同編 1974）、昭和50年に橿原考古学研究所によって初めて発掘調査（第1次調査）が実施された（奈良県立橿原考古学研究所編 1979）。その後、昭和56年度から平成2年度まで、おもに二上山北麓遺跡群は学術上及び遺跡保護の立場から香芝町教育委員会（当時）が主体となり国庫補助金事業による遺跡範囲確認のための発掘調査を実施してきた。



第4図 桜ヶ丘第1地点遺跡位置図 ( $S=1/5,000$ )  
(数字は調査次数を示す)

#### II 調査の経過と概要

今回の発掘調査は平成9年5月2日付けで施主から発掘届出書が提出されたことに始まる。そして、旧石器時代の包含層が遺存していることが予想されたため、香芝市教育委員会が施主と協議をおこない、発掘調査を実施（第9次調査）することになった。

今回の調査地は第7次調査地の西隣接地である。調査地は東から西に傾斜しており、第7次調査の結果からすると、東側の半分ほどがすでに削平されていることが予想された。そのため、なるべく調査地の西側部分で2m×2mのトレンチを東西方向に3ヵ所（西から第1～第3トレンチ）設定し、人力で掘削することにした。

調査は6月27日から開始した。まず、遺構の残りが最も良いと予想された東側の第3トレンチを掘削した。その結果、地表下約1.1mで地山を検出したが大部分が新しい開発に伴う盛土で、地山の上に約0.3m耕作土がわずかに堆積しているのみであった。

続いて、第2・第1トレンチを掘削したが第3トレンチと同様に盛土と耕作土のみであった。

層序はいずれのトレンチにおいても同じで以下の通りである。

	土 層	第1トレンチ	第2トレンチ	第3トレンチ
第1層	盛土1（残土による盛土）	層厚60cm	層厚60cm	層厚60cm
第2層	盛土2（切土による盛土）	層厚50cm	層厚55cm	層厚50cm
第3層	暗褐色土（耕作土）	層厚60cm	層厚35cm	層厚30cm
第4層	地山			

まず、第1層は最近の盛土で、ピンやコンクリート製ブロックなどが堆積していた。第2層は基本的に東側の高い部分を削平した切土による盛土で、この層からはコンクリート片のほか旧石器時代のサヌカイト製石器も含まれていた。なお、この第2層上面から掘り込まれた直径約2mのゴミを焼却するための穴が第2・3トレンチにかけて検出された。第3層は戦前に畑として利用されていた当時の耕作土で、西側の低い方へいくほど堆積が厚くなっている。この層から遺物は出土しなかった。そして、第4層は地山である。

### III まとめ

今回の調査において、旧石器時代の純粹な遺物包含層は検出されなかった。このことは、第7次調査地の状況から推測できたことである。というのも、第7次調査において、東側のトレンチでは良好な旧石器時代の遺物包含層が確認されたが、西側の低い方へいくほど後世の削平を受けしており、遺物包含層がほとんど確認できない状況であった。つまり、今回の調査地において後世の盛土が厚く堆積していたことは、第7次調査地などから削平された土が盛られたことによると考えられる。そして、かろうじて地下遺構が残っていると予想された西側でトレンチを設定したが、いずれも削平されており遺物包含層は確認できなかった。

以上のことから、今回の調査地もかつては良好な遺物包含層が存在したと考えられるが、国道建設の際に調査地部分の土が西側の谷へ削り取られ、それに伴ってかつて存在したと考えられる遺物包含層も消滅したことが判明した。第2層で出土した旧石器時代の遺物は、おそらく第7次調査地などから客土とともに混入したものと考えられる。

#### 参考文献

- 同志社大学旧石器文化談話会 1972「大和国香芝町の先土器時代遺跡」『青陵』20  
同志社大学旧石器文化談話会編 1974『ふたがみ』学生社  
奈良県立橿原考古学研究所編 1979「二上山桜ヶ丘遺跡—第1地点の発掘調査報告—」(奈良県 史跡名勝天然記念物発掘調査報告第38冊) 奈良県教育委員会  
橋口清之 1981「大和二上石器製造遺跡研究」「上代文化」第4・5合併号

## 4 藤ノ木丁遺跡（第17次調査）

### I 遺跡の位置と環境

藤ノ木丁遺跡は香芝市磯壁から狐井にかけて広がる古墳時代を中心とする遺跡である。当遺跡は上山麓東部から緩やかにのびる二上扇状地の先端部から大和川の一主流である葛下川沿いに形成された沖積低地付近を中心に所在している。昭和63年度に当遺跡の発掘調査が最初に行われ、水路、溝、土坑などの遺構とともに、古墳時代前期から後期初めにわたる遺物が出土した。その後、第7次調査で弥生時代後期後半から古墳時代前期の土器が出土している。



第5図 藤ノ木丁遺跡調査位置図

### II 調査の経過と概要

今回の発掘調査は、分譲住宅建築のため平成9年9月3日付けで施主から発掘届出書が提出され、香芝市教育委員会が施主と協議をおこない、発掘調査を実施することになった。

調査は10月29日に実施した。調査地の東側及び西側に2m×10mのトレンチを南北方向に2本設定し、重機で掘削を開始した。その結果、いずれのトレンチも現耕作土（層厚16cm）の下に水田床土（層厚5cm）、そして、青灰色粘質土（層厚4cm、整地土）が堆積しており、地表下約25cmで地山が検出され、遺構・遺物は皆無であった。

### III まとめ

藤ノ木丁遺跡の調査は今回で17次となる。これまで遺構と遺物がともに検出されたのは第1次調査と第7次調査のみで、この両者は隣接している。したがって、遺跡の中心は第1・7次調査地周辺と考えられる。今後の調査で遺構の広がり等がより一層解明されることを期待する。

#### 参考文献

- 香芝町教育委員会編 1989「藤ノ木丁遺跡発掘調査概報」香芝町教育委員会
- 香芝市教育委員会編 1994「藤ノ木丁遺跡」「香芝市埋蔵文化財発掘調査概報1」香芝市教育委員会
- 香芝市教育委員会編 1994「藤ノ木丁遺跡[第6～11次]の調査」「香芝市埋蔵文化財発掘調査概報2」香芝市教育委員会
- 香芝市教育委員会編 1995「藤ノ木丁遺跡[第12～16次]の調査」「香芝市埋蔵文化財発掘調査概報4」香芝市教育委員会

## 5 瓦口森田遺跡（第4次調査）

### I 遺跡の位置と環境

瓦口森田遺跡は、香芝市の南東部、大字瓦口一帯に広がる縄文時代から中世にわたる複合遺跡である。当遺跡は、昭和62～63年にかけて実施された「五位堂駅前区画整理事業」に伴う事前発掘調査（第1次調査）で縄文時代後・晚期の流路跡や河川の洪水によって埋没した中世の水田耕作に伴う人や牛・馬の足跡群が検出されたことから、その存在が明らかとなった。

遺跡は、大和川の一支部である葛下川沿いに形成された標高約53～55m前後の冲積低地上に立地しており、遺跡の北西約300mには、縄文時代早期から晚期の遺物散布地である下田東遺跡が、また、南西約300mには、平成5年度の第8次調査で縄文時代前期後半～中期初頭の大量の土器や石器等が出土して話題を集めた狐井遺跡などが所在しており、奈良盆地の平野部において比較的縄文時代の遺跡が集中して分布する地域として注目されている。

当調査地は、第1次調査地の中枢部より南西へ約150m、現在、周知の遺跡範囲として認識されている瓦口森田遺跡の西端に該当する地点で、第1次調査地で確認された中世の埋没水田の分布域や縄文集落に伴う遺構や遺物の展開を把握するうえで重要視された地域である。



第6図 瓦口森田遺跡調査位置図

## II 調査の経過と概要

発掘調査は、共同住宅建設のため平成9年8月27日付けで事業者から発掘届出書が提出されたことに起因する。建物基礎に伴う钢管杭埋設深度が4mにおよぶため、事業者側と協議を行い、遺構や遺物の有無確認のための試掘調査を実施することになった。

発掘調査は、事業対象地域東側に幅2m×長さ15mの南北方向の調査区を設定して重機と人力による試掘調査を実施した。

調査区の基本層序は、下記のとおりである。

第1層 暗茶色粘質土層 〔層厚20cm〕(現代の耕作土)

第2層 黄褐色砂質土層 〔層厚15cm〕(現代耕作土の床土)

第3層 灰褐色砂質土層 〔層厚25cm〕(普遍的に中粒砂混。弱粘質土)

第4層 黄褐色粘質土層 〔層厚20cm〕(上面で素掘溝検出)

第5層 暗灰褐色砂質土層 〔層厚10cm〕(やや粘質。耕作面造成に伴う整地土層?)

第6層 灰色砂層 〔層厚20cm〕(細粒～中粒砂。調査区中央部から南側のみ)

第7層 暗茶褐色砂質土層 (基盤層)

各層中とも土器の包含量は希少であったが、とくに中世の耕作面および水田造成に伴う客土層である第4・5層中には中世の土器片に混在して古墳時代の須恵器の破片数点が出土した。

調査は、既往の調査結果から、何らかの遺構や遺物の検出が予想される第7層の暗茶褐色砂質土層上面での遺構検出作業を実施することにした。

第7層は調査区北側から南側にかけて下方へ緩やかに傾斜しており、調査区北側と15m離れた調査区南側の比高差は約40cmを測る。調査区の中央部から南側へ行くにつれて地山の粘性度が増しており、また、湧水性の高い砂層の堆積層が厚くなることから、この自然地形の落ち込みは当調査地より南東約100mの地点で実施した平成8年度の第3次調査で検出した河道の南岸縁辺部に対応する北岸縁辺部に該当する可能性が強い。河道の氾濫原域北側の縁辺部を確認したが、各層中とも顕著な遺構や遺物は検出されなかったため、調査区の拡張等の本格的な発掘調査は実施せず、記録保存のための図面作成および写真撮影終了後、試掘調査を終了した。

調査総面積は30m<sup>2</sup>、調査期間は平成10年2月3日の1日間のみであった。

## III まとめ

顕著な遺構や遺物は検出されなかったものの、当調査によって、第3次調査で検出した河道あるいは、氾濫原域の南岸縁辺部に対応する北岸縁辺部の南北両辺を確認することができた。その氾濫原域の規模は推定幅約100mであり、付近一帯に大規模な河道跡の存在が考えられる。

また、第1次調査で確認された中世の埋没水田や繩文集落に伴う遺構は当地では皆無であることや該期の土器包含層も希少であることから、この氾濫原が瓦口森田遺跡の西限・南限であるものと考えられる。

### 参考文献

香芝市教育委員会編 1994「箕井遺跡第8次調査」『香芝市埋蔵文化財発掘調査概報2』香芝市教育委員会

図版1 錬田遺跡（第11次調査）・狐井遺跡（第16次調査）

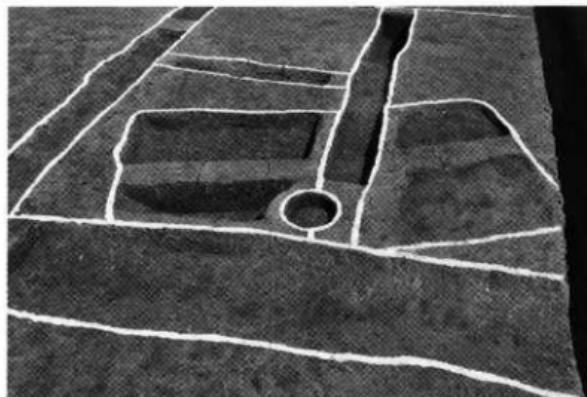


錬田遺跡第11次調査  
調査区全景  
(南西から)



狐井遺跡第16次調査  
調査区全景  
(南から)

図版2 狐井遺跡（第16次調査）・桜ヶ丘第1地点遺跡（第9次調査）



狐井遺跡第16次調査  
SK-01全景  
(南から)



狐井遺跡第16次調査  
P-03黒色土器出土  
状況  
(東から)



桜ヶ丘第1地点遺跡  
第9次調査  
調査区全景  
(東から)



第1トレンチ北壁土層  
(南から)

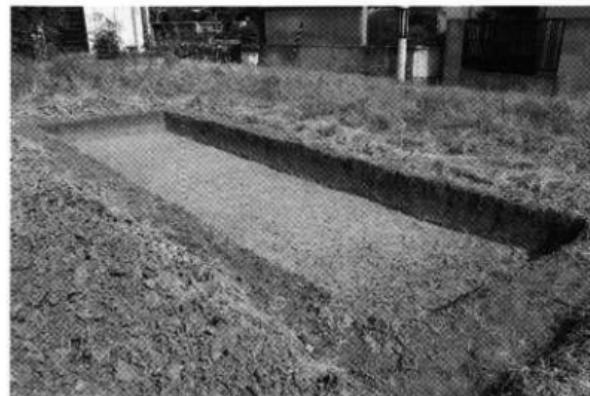


第2トレンチ北壁土層  
(南から)



第3トレンチ西壁土層  
(東から)

藤ノ木丁遺跡（第17次調査）・瓦口森田遺跡（第4次調査）



藤ノ木丁遺跡第17次調査  
調査区全景  
(南西から)



瓦口森田遺跡第4次調査  
調査区全景  
(北から)



瓦口森田遺跡第4次調査  
東壁土層断面  
(西から)

香芝市埋蔵文化財発掘調査概報 10

— 平成9年度 —

1998(平成10)年3月31日

発行 香芝市教育委員会  
番地 香芝市本町1397番地  
印刷 明新印刷株式会社  
番地 奈良市南京終町3丁目464番地